

科目番号: 64

分野	専門分野(小児看護学)				
科目名(必修)	小児看護学概論				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		
テキスト					
系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院)					
厚生の指標 増刊 国民衛生の動向(厚生労働統計協会)					
目的					
小児の特性と小児保健活動の概念を理解し、あらゆる健康レベルにある小児とその家族に対して援助を行うための基礎知識を学ぶ。					
目標					
1. 健康な小児の発達段階に応じた身体的、精神的、社会的特徴を理解できる。					
2. 小児各期の特徴をふまえた援助を理解できる。					
3. 子どもの権利と擁護について考えることができる。					
4. 子どもと家族、それらを取り巻く社会との関係を考えることができる。					
5. 小児看護の役割、現代の小児医療の問題点について考えることができる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	小児医療・小児看護の変遷と課題/子どもの権利				講義
2	子どもの成長・発達(ピアジェ)/子どもと家族を取り巻く社会資源の活用				講義
3	成長、発達(形態的・機能的発達)				講義
4	成長、発達(形態的・機能的発達)				講義
5	成長、発達(形態的・機能的発達)				講義
6	小児の心理・社会的発達				講義
7	小児の栄養				講義
8	基本的生活習慣の獲得				講義
9	子どもと家族				講義
10	遊びと学習				講義
11	予防接種と学校保健安全法				講義
12	子どもを取り巻く社会				講義
13	グループワーク(小児に関わる諸問題)				演習
14	グループワーク発表				演習
15	試験・まとめ				講義
評価方法・評価基準					
筆記試験80%、グループワーク20%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号: 65

分野	専門分野(小児看護学)				
科目名(必修)	治療を受ける小児の理解				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					医師
講義回数	15回	開講時期	前期		
テキスト 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 (医学書院)					
目的 小児期の健康障害とその経過の特徴を理解し、小児期の代表的な疾患とその病態生理、検査と治療について学び小児看護に必要な基礎知識を身に着ける。					
目標 1. 小児期に特有な疾患のと病態生理学を理解できる。 2. 小児の健康支援、予防医学を理解できる。 3. 小児期特有の疾患とその治療、検査を理解できる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	新生児疾患				講義
2	代謝性疾患(先天性代謝異常、1型糖尿病)				講義
3	内分泌疾患				講義
4	免疫・アレルギー疾患				講義
5	感染症、呼吸器				講義
6	循環器				講義
7	消化器疾患				講義
8	血液・造血器疾患				講義
9	悪性新生物				講義
10	腎・泌尿器疾患				講義
11	神経疾患				講義
12	運動器疾患				講義
13	皮膚・眼・耳鼻科疾患				講義
14	事故・外傷				講義
15	試験・まとめ				講義
評価方法・評価基準 筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号: 66

分野	専門分野(小児看護学)				
科目名(必修)	健康課題のある小児の日常生活を支える看護				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔1〕 小児看護学概論・小児臨床看護総論(医学書院)</p> <p>系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論(医学書院)</p>					
<p>目的</p> <p>健康課題が小児と家族に及ぼす影響を理解し、日常生活を支える看護を実践する能力を培う。</p>					
<p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病気・障害が子どもと家族に及ぼす影響について理解できる。 2. 小児期の代表的な健康問題と看護について理解できる。 3. 小児看護技術について理解できる。 					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	病気・障害をもつ子どもと家族の看護				講義
2	入院中の子どもと家族の看護				講義
3	在宅療養中の子どもと家族				講義
4	事故および災害時の子どもと家族への看護				講義
5	症状のある子どもの看護; 発熱、呼吸困難(酸素療法、吸引)				講義
6	症状のある子どもの看護; 嘔吐・下痢、脱水(輸液・抑制)				講義
7	代表疾患における看護; 悪性腫瘍				講義
8	代表疾患における看護; 1型糖尿病、アレルギー疾患、けいれん				講義
9	代表疾患における看護; 先天性心疾患、川崎病、腎疾患				講義
10	小児の看護技術; バイタルサイン測定、計測				講義
11	小児の看護技術; 与薬、抑制、検体採取(検尿、骨髄穿刺、腰椎穿刺)				講義
12	小児の看護技術; 救急救命処置				講義
13	バイタルサイン測定、計測、採尿、酸素療法、浣腸				演習
14	バイタルサイン測定、計測、採尿、酸素療法、浣腸				演習
15	試験・まとめ				講義
評価方法・評価基準					
筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号: 67

分野	専門分野(小児看護学)				
科目名(必修)	小児の看護過程				
単位数(時間)	1単位(15時間)	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	8回	開講時期	後期		
テキスト 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論(医学書院) リンダJ.カルペニート著 黒江ゆり子監訳 看護診断ハンドブック 第11版(医学書院) 百瀬千尋編著 看護学生のためのレポート&実習記録の書き方(メヂカルフレンド社)					
目的 小児に多くみられる、代表的事例を用いて演習を行い、小児の成長・発達段階および小児看護の特性を踏まえた看護過程について理解する。					
目標 1. 患児の成長・発達段階を踏まえ、健康課題のある小児の問題を明確にし、援助を考えることができる。 2. 健康課題のある小児の看護過程の展開を理解できる。 3. 症状の悪化を踏まえたアセスメントができる。 4. 家族と小児への生活指導を理解できる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	小児の看護過程の展開について、健康レベルに応じた小児と家族の特徴(事例:気管支喘息)				講義
2	アセスメント・関連図				演習
3	各パターンのアセスメント・関連図				演習
4	看護診断の抽出				演習
5	看護診断発表				演習
6	計画立案				演習
7	計画発表、ロールプレイ(プレパレーション)				演習
8	ロールプレイ(プレパレーション)				演習
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・評価基準 レポート、課題提出内容、発表内容、出席態度、出席時間を総合的に評価し、100点中60点以上を合格とする。					
その他					